

《株式会社エフエム東京 第407回放送番組審議会》

1. 開催年月日:平成 26年 4 月 8 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数6名(社外6名 社内 0 名)

◇出席委員(5 名)

横 森 美 奈 子 委員長	内 館 牧 子 委員
香 山 リカ 委員	西 田 善 太 委員
秋 元 康 委員	

◇欠席委員(1名)

渡 辺 貞 夫 委員

◇社側出席者(10 名)

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
石 井 常務取締役
平 常務取締役 営業局長
山 科 常勤監査役
村 上 執行役員 編成制作局長
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
平 岡 編成制作局 番組プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

藤 取締役 マルチメディア放送事業本部長

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 24 分)

SCHOOL OF LOCK!

3 月 11 日(火) 22:00～23:55 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2014 年 2 月度 聴取率調査結果について

2 月度聴取率調査結果が発表されました(調査期間:2014 年 2 月 17 日(月)～23 日(日)、ビデオリサーチ調べ)。全日週平均(6:00-24:00)において、全体【12-69 才】区分聴取率では在京ラジオ局中で唯一スコアが上昇、また【12-59 才】の到達率(リーチ)では全局中で単独首位を獲得しました。幅広い世代のリスナーから高い支持を獲得する結果が得られました。

しかしながら、当社メインターゲット M1F1 層の【20-34 才男女】区分は、前回 12 月よりスコアを下げました。今回の特長としては、これまで堅調に推移していた 20 代のスコアが下降し、その一方で 10 代、30 代、50 代のスコアが上昇しており、全体のスコアは伸ばせたものの、編成戦略としては課題を残す結果となりました。

また、中高生ターゲット番組「SCHOOL OF LOCK!」は引き続き好調で、【10 代男女】区分で今回も他局を大きく引き離し単独トップを獲得。昨年 4 月以降連続で単独首位を継続中です。

今回課題となった 20 代を含め若者リスナーの創造、育成を継続的に取り組み、共感のある放送を心がけ、さらなる聴取率向上に向けて努めてまいります。

■「LOVE&HOPE～防災ハンドブック」を発行

TOKYO FM はじめ JFN38 局では、東日本大震災発生直後より、現在に至るまで平日毎朝 6:31～6:40 にレギュラー番組「LOVE&HOPE～ヒューマンケア・プロジェクト」を通じて被災地の様々な姿や力強く生きている方々の声、私たちにできることなどをお伝えしています。

日本国内では南海トラフ地震・津波や首都直下地震など、巨大地震がいつどこで起きてもおかしくない状況が続く中、これまで3年の東北取材を通して被災地の方々が実際体験されたこと、震災を通して得られた知恵に学び、それを全国に届けることが重要だと考えるに至りました。

そこで、私たちがラジオ局として長年蓄積してきた防災情報に加えて、Date FM(FM 仙台)、FM 岩手釜石支局、ふくしま FM のパーソナリティが実際に経験したこと、現地リスナーの方々からシェアされた実体験に基づくアドバイスを東北大学災害科学国際研究所 今村文彦教授の監修を得て小冊子としてまとめました。この「LOVE&HOPE～防災ハンドブック」は、50 万部発行し、4 月 14 日に全国の約 2 万の郵便局でも配布されます。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○今回の調査で、在京ラジオ局中で唯一スコアが上昇したということだが、他の局も含めてラジオの数字がなかなか上昇しない一番の問題点はどこにあると考えているか？

■ラジオ全体の SIU が足踏みしていて、上昇気流に乗れていないのは実態としてある。若い世代においてはネット、携帯、ゲームなど手軽にいろんなエンターテイメントがある中で、ラジオを聴取するという時間のシェアが厳しいことは事実。

若い世代に対しては、スマートフォンからラジオを聴取する一つのライフスタイルの提案を徹底的に繰り返しており、10 年ほど前に叫ばれた「若者のラジオ離れ」というのは、当社に限って言えば、比較的食い止められていると思っている。

大きく滞っているのはミドル層、20 代・30 代のターゲットで、ラジオの聴取自体がライフスタイルの中になかなか根付いてこないというのが課題。

聴けるデバイスが増えたが、そこにあって当然のメディアになっているため、メディアの価値を先鋭化しないと他と同じになってしまうことには危機感を持っている。

○5年前に雑誌でラジオ特集を出したときに増刷がかかり、今年出した第二弾では、前回と同じ部数を見込んで多く刷った。それをどう評価するか。第一弾のときは、部数を抑えて、争うように買われたが、第二弾の方ではそういう衝撃を与えられなかった印象だ。ただし減ってはいないということは評価すべき点だと思う。

○radiko のエリアフリー化についてはどうか？

■先週1週間で、日本全国の 60 局のステーションが聴ける radiko.jp プレミアムに、4 万人が登録した。4 月は初月無料で、5 月から課金されるようになる。非常に良い伸びをしているのは事実。

○地方局がキー局と並列に並ぶことを OK したこと、その判断を見守っていきたい。

○メインターゲットが M1F1 層だが、今回 50 代のスコアが上昇したということをどう考えているか？

■決して悲観的なことではなく、今の 50 代の方々はビートルズ以降を聴いて育ってきた世代で、ライフスタイルも活動的で、知見も高く、文化的でもあるので、ミドル層以降の聴取率が上がるのは悪いことではないと考えている。ただ、当社のコアな戦略は若いリスナー、他のメディアではなかなかとりづらいとされる 20 代に照準を絞っているため、そこに課題がある。ただ、50 代に聴いていただけるということは、大人の鑑賞にも

耐える放送が一部ではできているのかなというふうに捉えている。

○防災ハンドブックは、大変いい内容だと思うが、デザインとして見にくい。字のメリハリがない。いざというときに、パッと見てポイントが目に入るということも重要だ。

○良いことが書いてあるが、イラストの使い方やデザインが、行政が出すものと変わらない。防災の内容なのに、TOKYO FM が手掛けるとこんなにかっこいいのか、こんなにおしゃれなのか、こんなに若い人が手に取りたくなるのか、それがポイントだと思う。それが、結局は他と同じになってしまうところももったいない。TOKYO FM のフィルターを通すとこんな堅い内容もこんなに面白い小冊子になるのか、ということをやるべきだ。そのイメージはすごく大事だと思う。

○内容が内容だけに、あまりポップにはしづらかったのかもしれないが、もっと音楽の要素を入れるなど、遊んでもいいと思う。同じメッセージを伝えるにも、もっと別の表現方法もあるはずだ。

議題2: 番組試聴 (約 24 分)

【番組名】 SCHOOL OF LOCK!

パーソナリティ:とーやま校長、よしだ教頭

【放送日時】 3月11日(火) 22:00～23:55 放送

【番組概要】

東日本大震災から、ちょうど3年を迎える当日、中高生をメインターゲットに毎週月～金曜22時から全国している「SCHOOL OF LOCK!」では、東北の生徒(リスナー)たちの声に耳を傾け、彼らが今考えていること、感じていることを、全国に向けて届けました。

東北の未来、日本の未来を作っていく“鍵”を握る10代たちに、東北の10代たちのリアルな今を知ってもらうことを目的に、当日は、番組のWEBサイト上に「SCHOOL OF LOCK! 未来新聞」を立ち上げました。ここに、実際に震災を経験した生徒たちから寄せられた、震災の記憶、今抱えている不安や不満、未来に向けて思っていること…、彼らが自分の言葉で書いた記事を掲載しました。

そこには、3年という月日が経って今、ようやく言葉にできる過去と今と未来への想いが綴られました。

当日の放送では、その文章を時間の限り紹介しながら、書いてくれた本人とも電話をつなぎ、今、彼らが思うこと、同世代のリスナーに伝えたいことを全国に届けました。

つらかったあの日の記憶や、ずっと声に出せなかった怒り、自分に言い聞かせるように語られる決意…そこには10代の等身大の想いが集まりました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○素晴らしい番組だ。ラジオの魅力を最大限に生かしている。一般の人を出すときに、テレビだとどうしてもやらせ感が出てしまう。モザイクをかけたたり音声を変えたりすることで、番組の都合上出てくるような感じになり、信用されない部分もある。一方で、「ラジオネーム」で守られているラジオから聞こえるあの生の声というのはすごく良いし、これがラジオの強さなんだと改めて知った。リスナーの言葉は文字でも読んだが、「どの“ありがとう”が最後になってもいいように」という言葉が彼の口から出るだけでも、この番組が存在する理由があったような気がする。新しい未来にワクワクし、教員になりたいという夢を語った福島の高校生に、校長が「頼むな」という一言で受けているところも良かった。それ以上の言葉はないし、非常にリアルだった。ネットでは匿名に守られ、世の中を斜めに見たような無責任な発言が多い中、それと相反するところで、こういう若者た

ちがちゃんと生きているということをラジオがメッセージとして伝えた良い番組だったと思う。BGM の演出が過剰だったような気もしたが、そういう叙情的な部分も含めてよかったのだと思う。

○すごく良い番組だと思った。「風化」だと新聞やテレビが言えば言うほど、言霊のように本当にそうになってしまうのではないかと危惧している。今回、こういう番組が風化を防ぐ一つの手立てになるのではと思った。3月11日は、各メディアが震災の特集を組んでいたが、当日のドキュメントや3年経って今、3歳になった赤ちゃんがどれくらい元気に育っているかといった話題が多かった。

その中で、こういう番組が作れるのはTFMの格好よさだと思う。特別番組ではなく、普段からやっているSCHOOL OF LOCK!で二人のキャラクターを生かしながら、こういうことをやったことも良いし、10代はなかなか発信する場がない。そういう意味でも、もう少しPRしてもいいと思う。

社員たちがこういったTFMらしい格好よさをもっと意識の中に叩き込んでいけば、ステーションイメージとして大きくなってくだろうし、作る番組も変わってくるだろう。

○登場した10代リスナーの話が素晴らしかった。彼らのこういう話を引き出せるのは、普段から番組とリスナーの間に信頼関係があるからこそだろうと思う。メディアの取材では、誰もが10代の被災体験の話を聞いてみたいと考えるだろうが、それでいきなり10代にインタビューしても、警戒されてすぐに応じてもらえないことはないだろう。それが、SCHOOL OF LOCK!だと信頼感や積み重ねがあるからこそ、ここでなら話したいと思ってもらえたということに番組の功績が大きいと感じる。また、良かったのは、番組の冒頭に、辛い経験を語ることで余計に傷つくことになることへの配慮があった点。

もし、投稿してくれたのにここに載らなかった人がいたなら気になるが、その点はどうか。

■基本的に対象の県から投稿されたものは全部掲載した。冷やかしのような意見は一つもなかったが、もしそういったものが来たとしても載せようと思っていた。現状の社会への不満といった意見も掲載した。掲載にあたっては、語尾を直したりすることもあるため、各々のリスナーに直接電話をかけて改めて内容の確認をした。

○震災の話を人に伝えるのは難しいと思う。全国向けの場合は特に、真ん中にいる人と、周辺にいる人と、関係ないと思っている人がいて、どういうバランスで伝えるのかが悩ましいのだが、この番組は素直に聴けた。それは具体的であることと、生身であることによるのだと思う。震災の報じ方は復興、悲しみ、赤ちゃん…というパターンの組み合わせがテレビだと思うが、その創造の域を超える表現がなかなかない中、個人の表現力にかなうものはないと感じた。登場したラジオネーム「エゴイスト」のように銜いも思い込みもなく想いを語れる人を番組が見つけ出したことと、それを引き出せる校長

教頭がいるということは、番組の枠組みが強いことに加えて、平素から鍛えられた関係性があると思った。熱血で情に脆く、熱い…というマンガっぽい番組が功を奏していたと思った。オルゴールみたいな BGM は好まなかったが、番組全体が普段の番組と同じテンションなのが良かった。

■ 今回の番組に登場した二人は、以前校長・教頭が東北を訪れたときに実際に会ったことのあるリスナーだったこともあり、特に関係性が深かった。

○ 震災の件はいろんな演出がありがちだが、これについては素直に感動した。メールを読んでいるパーソナリティが声を詰まらせているのも自然だったし、これだけ純粹な感じが素直に伝わってくるのは、今までの番組の成り立ちが大きいと思うが、本当に素晴らしかった。未来新聞の応募数はどれくらいだったのか？

■ 合計 32 通で、通常のメールよりは圧倒的に少ない数。この時点でそういう話ができると思ってくれた人だけが送ってくれたのだと思う。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送: 番組「SPO☆LOVE」
4月26日(土)5:00～7:00放送
- ② 書面: TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット: TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、5月13日(火)に開催することを決めた。

以上